

実務経験のある教員による授業科目一覧 2020(令和2)年度

	担当教員名	授業科目名	履修学年	単位数	配置学部 または学科	科目 区分	方法	授 業 内 容
1	糸川 裕子	情報機器演習	1	2	全学共通	教養	講義	SEとしてソフトウェア開発業務に従事した経験を生かし、再利用可能なデータの作成方法や伝わりやすいデータの提示方法など、実社会で有益なソフトウェアの利用方法を教授する。学校教育現場でのコンピュータ普及に対応するため、コンピュータの機能と活用及び今日のコンピュータの状況についての一般的理解を得ると共に、音楽教員に必要なコンピュータ操作の初歩を習得する。
2	壬生 千恵子	世界音楽文化学I	2~4	2	音楽文化学科 演奏学科	関連	講義	諸外国の伝統音楽団体の招へい業務と海外での音楽関連業務の経験を活かし、学問的フィールドワークにとどまらない音楽と社会との様々な結びつきや課題を多角的に見つめ、理解しながら、世界の諸民族の音楽文化を学ぶ。
3	山口 道晴	人間学II-1	2~4	2	全学共通	教養	講義	現職カトリック司祭としての豊富な司牧経験を活かし、宗教学・聖書学について講義を行う。エリザベト音楽大学はキリスト教的人間観を持って芸術性を高め、人間の精神性を高めている大学であり、その中心にある聖書学・宗教学を分かりやすく共に学ぶ。
4	福原 之織	音楽科教育法I	2	2	教職	教職	講義	中学校・高等学校教諭(音楽)としての経験ならびに小学校での音楽科指導と管理職経験を活かし、授業を行う。①音楽教育の意義、音楽教育の歴史的概観や音楽教育を実践する教師のあり方について考察する。②学習指導要領に示された教科の目標と内容、および指導上の留意点や評価について理解する。③授業設計、教材研究および学習法の選択についてその重要性を理解し、学習指導案試作に取り組む。④グループでの模擬授業実施とふりかえりを通して、改善点を見出す。
5	福原 之織	音楽科教育法II	3	2	教職	教職	講義	中学校・高等学校教諭(音楽)としての経験ならびに小学校での音楽科指導と管理職経験を活かし、授業を行う。授業デザイン力(学習指導計画・指導案作成等)と具体的な授業指導力(教材研究と開発、授業方法開拓等)および領域別の指導法について学び、多様な授業実践例を取り上げ、考察する。鑑賞授業に資する関係特殊楽器体験や模擬授業などの演習を交えて必要な指導スキルを身につける。
6	福原 之織	音楽科教育法IV	4	2	教職	教職	講義	中学校・高等学校教諭(音楽)としての経験ならびに小学校での音楽科指導と管理職経験を活かし、授業を行う。本授業は、教育実習をはさんで行われるため、内容は学習指導案作成、模擬授業、それらに必要な教材研究、指導法研究等が中心となる。その中で、「各授業における適切な学習目標設定」に応じた「適切な学習環境作り、教材開発、学習演出方法」など実践的な授業力を高めることにポイントを置き、教員として必要な資質および授業力の向上を図る。また、教育現場への見学に出向き、優れた実践から学ぶとともに、教員採用試験に向けた過去問演習等も行う。
7	壬生 千恵子	コンサートマネジメントI	2~4	2	全学共通	全学 共通	講義	文化財団管理職、劇場、国際音楽祭など舞台芸術運営に20年間携わってきた経験に基づき授業を行う。音楽領域の舞台公演実施に関する幅広い知識・スキルを得ることを目的とする。劇場論、コンサート運営、ステージワーク、音響、照明等、プロフェッショナルを講師に招き、実際の音楽祭の現場での実践学習をおこなう。
8	福原 之織 川野 祐二 竹信 ひとみ	教師論	1	2	教職	教職	講義	担当教員3名のうち、1名は学長の立場から教職の厳しさについて指導する。ほか2名のうち、1名は中学校・高等学校教諭(音楽)、小学校音楽科の指導経験をもち、また1名は小学校教諭としての経験があり、両名とも小学校管理職経験者である。それらの知識と経験を活かした授業・指導を行う。幼稚園教員免許および中学・高等学校の音楽科教員免許取得に向けた基本的な学習として、次のような内容を学習する。①教職の意義、教員の社会的な役割、資質能力、職務内容等とその責任、求められる教師像ならびに拡大化、多様化する学校の担う役割と、内外の専門家との連携分担による組織的な対応の重要性。②協働、連携、分担して組織的に諸課題に対応する教育現場の、具体的な仕事内容。(小学校でのボランティア体験を含む)③チームで働く資質を磨くためのグループワークとプレゼンテーション。(アクティブ・ラーニング)講義は川野および福原が代表をつとめ、授業を行う。
9	壬生 千恵子 前田 由樹	人間学III-1	2~4	2	全学共通	教養	講義	ホールやアートNPOにおける人材育成事業とキャリア支援活動、ボランティア育成事業等の実績をもとに、音楽大学での学びを社会貢献に活かす奉仕活動として、音楽アウトリーチを高年齢者施設等で実践する。
10	福原 之織 竹信 ひとみ	教職実践演習(中・高)	4	2	教職	教職	講義	担当教員2名のうち1名は中学校・高等学校教諭(音楽)・小学校音楽科の指導経験、また1名は小学校教諭としての勤務経験があり、両名とも小学校管理職経験者である。それらの知識と経験を活かした授業・指導を行う。この授業は教職課程における学修の総仕上げとして、各学生が教職に必要な実践力を身につけるためのものである。教育実習をふまえた音楽科の指導法研究、具体的な指導スキルを磨く少人数での授業演習を通して、音楽科教員としての教科指導力のさらなる向上をはかる。また、児童生徒理解のためのロールプレイなど、グループワークを中心にした実践的な演習を行うとともに、現職(元職)からの話を聞き、考察を行うことを通じて教育現場の実情への意識を高め、教員としての資質の向上に役立てる。
11	壬生 千恵子 木谷 智子	音楽文化卒業演習I	4	2	音楽文化学科	主要	演習	文化財団管理職、劇場、国際音楽祭など、国内外の舞台制作・音楽企画プロデュース・劇場運営の経験に基づいて授業を行う。音楽、アートマネジメント、心理学に関わるそれぞれの専門について、①意味づけする力(考察力、分析力)、②企画・実践力、③文章力、④プレゼンテーション能力、⑤①~④をふまえた総合的コミュニケーション能力を育成することを主たる目的とし、4年間の学びの総まとめとする。具体的には、教員の指導・助言を受けながら、各自がテーマに沿った実践・研究を進め、発表を行っていく。

実務経験のある教員による授業科目一覧 2020(令和2)年度

	担当教員名	授業科目名	履修 学年	単位数	配置学部 または学科	科目 区分	方法	授 業 内 容
12	壬生 千恵子 木谷 智子	音楽文化研究演習I	3	2	音楽文化学科	主要	演習	文化財団管理職、劇場、国際音楽祭など、国内外の舞台制作・音楽企画プロデュース・劇場運営の経験に基づいて授業を行う。大学卒業後、社会に出て「すぐに動ける」ための土台となる態度、実践的研究に必要な知識やスキル等を身につけることを目的とする。研究実践や体験実習を学生が主体的に経験し、振り返りを行うことによって、音楽コミュニケーションデザインの学びの諸要素を統合的に身につける。
13	壬生 千恵子 木谷 智子	音楽コミュニケーションデザイン基礎演習I	2~4	2	音楽文化学科	主要	演習	文化財団管理職、劇場、国際音楽祭など、国内外の舞台制作・音楽企画プロデュース・劇場運営の経験に基づいて授業を行う。この授業では、主に音楽コミュニケーションデザイン専修の3・4年生が行う音楽企画や研究実践の補助を経験することで、実践や研究で主体的に動けるために必要な態度、知識やスキル等を身につけることを目的とする。大学内外でなるべく多く見学や研究・実践補助を経験し、その振り返りを行うことでこれから自分たちが学び身につけるべき要素を自覚することを目標とする。
14	島田 美城	育児支援と指導法	3・4	2	音楽文化学科	専修	講義	幼稚園に勤めながら短大で教え、育児支援活動として公民館での育児支援講座など数多く担当してきた経験を活かし指導を行う。近年保育者の仕事は、子どもを保育することだけではなく、育児困難な家庭や不安定な家族を支えることも大切な仕事の一部として期待されている。ここでは幼稚園教諭として必要不可欠な育児支援の具体的な方法について学んでいく。社会の変化につれて、家族も大きく変化しているが、ここでは個人的な相談にとどまらず、社会的資源と連携しつつ家族全体を援助していく方法と技術について学ぶ。
15	壬生 千恵子	音楽文化概論IV(応用)	1	2	音楽文化学科	主要	演習	文化財団管理職、劇場、国際音楽祭など、国内外の舞台制作・音楽企画プロデュース・劇場運営の経験に基づいて授業を行う。この授業では、主に音楽コミュニケーションデザインを学ぶ3・4年生が行う制作実習および実践的研究の補助を経験することで、すぐに「考え・動き・取り組める」人材になるために必要な基礎態度を養い、心理、音楽療法、音楽教育、アートマネジメント、コミュニケーション理論など、関連する諸学問領域の在り方や学びの方向性についての理解を深めることを目的とする。大学内外での多くの見学や実習補助を経験し、その振り返りを行うことで、これから自分たちが学び身につけるべき諸要素を自覚する。
16	林 裕美子	室内楽(声楽)-1	2~4	2	演奏学科	主要	演習	フランス留学(パリ・エコールノルマル音楽院)以前から現在に至るまでの数多くの室内楽、オーケストラ等との共演実績から、声楽と管弦打楽器との共演可能な作品を、学生各自の能力、履修生の専攻楽器に応じて提案し、アンサンブルの喜びを通して表現力を身につける。
17	甲斐 摩耶	室内楽(弦楽器)-1	2~4	2	演奏学科	主要	演習	国内外のオーケストラでコンサートマスターを務め、さらに様々な室内楽、ソロ作品を演奏した実績や東京藝術大学における室内楽科、ピアノ科で室内楽の授業を非常勤講師として担当した経験を活かし、指導を行う。アンサンブルを通して、本当の意味で聴く力を身につける。
18	小川 裕雅	室内楽(打楽器)-1	2~4	2	演奏学科	主要	演習	打楽器奏者として国内外での演奏活動の中で、多くのジャンルの音楽奏法の研究を行ってきた実績をもとに、表現が多様な打楽器アンサンブルの無限の可能性を探っていく。
19	徳永 崇	編曲法(合唱)	2~4	2	演奏学科	主要	講義	作曲家としての豊富な経験と実績を活かし、作曲・編曲の指導を行う。混声四部合唱を中心とした合唱曲の研究を通して、各声部の役割、声部の重ね方、歌詞の扱い方を考察し、さらには声部書法やピアノ伴奏書法を学んだ上で、混声合唱による編曲の実習を行う。
20	林 裕美子	歌曲研究II	2~4	2	演奏学科	主要	演習	パリ・エコールノルマル音楽院留学中にG.トゥレーヌ、J.スゼー、J.ジロドー各氏他のフランス歌曲、フランスオペラの権威に師事し、帰国後もH.P.ロジェ、井上二葉各氏とのレクチャーコンサート等の経験から、アプローチの難しいフランス歌曲をわかりやすく解説、詩と絵画と音楽の関連性を学びつつ、フランス語での演奏技術を身につける。
	合計			40				